



「読み聞かせ」は楽しいな

11月17日(水)から通常読み聞かせが始まりました。もちろん、てんとう虫の会の方たちには、感染症対策のためにマスク着用の上にフェイスガードをお願いしています。先週は低学年、今週は高学年です。

子供たちは、読み手の人がすぐ近くにいて、会話をしながら読み進めてもらえることの幸せを感じているように見えます。テレビ読み聞かせの時は、テレビを見て、話を真剣に聞いていた子供たちでした。しかし、今回の読み聞かせでは、自分が気づいたことを声に出して伝えたり、読み手の人の質問に答えたりと、言葉のキャッチボールを楽しむことができていました。読み聞かせの良いところは、こういうところだなと改めて気づかされました。

ご家庭でも少しお時間があるときに、読み聞かせをしてみたいはいかがでしょうか。お子さんとのコミュニケーションがより深まるのではないかと思います。



《二十四節気 「小雪」》



22日(月)の雨を境に、急に寒くなり、冬の訪れを感じていると思います。それもそのはず、22日(月)から二十四節気の「小雪(しょうせつ)」に入っているからです。

「小雪」は静かに冬の到来を告げてくれる時期です。この時期を思わせる言葉を次にあげてみます。五感(目、耳、鼻、舌、皮膚)と心で感じられるとよいですね。

①木の葉時雨(このはしぐれ)

→木の葉が散るのを時雨(秋の終わりから冬のはじめにかけて降る雨のこと)にたとえた言葉です。ちょうど、木の葉時雨が見られますね。

②風花(かざばな)が舞う時期

→晴れた日に花びらが舞うようにちらつく雪のこと、また、冬のはじめのころ、風が吹き始めるとともにちらちらと舞い散る雪のことをいいます。雪という言葉を使っていないのに、雪を表すとは、言葉なんですね。

③炬燵猫(こたつねこ)や悴け猫(かじけねこ)

→一般的に猫は寒いのが苦手です。童謡『雪』には「猫はこたつで丸くなる」とあるように、「炬燵猫(こたつねこ)」という言葉があります。「悴け猫(かじけねこ)」は、寒くてちぢこまっている猫のことです。この2つの猫を想像するとかわいいですね。寒いときに「手がかじかむ」って言いますね。「悴む」て書くんですね。